



学校だより

夢中がいっぱい左近山の子

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来(公/開)～

令和5年9月28日

Sakonama
横浜市立左近山小学校
10月号

「節目の時はチャンスの時」

校長 徳留 勇

個人面談では、ご多用の中ご来校いただきありがとうございました。今年度より、前期の子どもたちの頑張りや成長について、あゆみの所見ではなく、保護者の皆様と直接対話をしながらより詳細にお伝えできるようにいたしました。

早いもので、令和5年度もあと数日で折り返し地点を迎えます。前期を振り返り、新たなスタートを切るための節目の時です。

以前、朝会で本物の竹を見せながら、「節目の時」を意識して過ごすよう、子どもたちに話したことを紹介いたします。

校長先生は「節目の時」をととても大切だと思っています。

ところで、節ってなんでしょう？

この竹を見てください。この少し膨らんで固くなったところが「節」です。竹ってものすごく背が高いですね。でも竹はほとんどが空洞です。この節がなければ簡単に折れてしまいます。

ところが、伸びては節をつくり、また伸びたら節をつくる。こうして、硬い節をいくつもつくることで、強い風がふいても倒れない、しなやかで丈夫な竹になることができます。

皆さんも竹と同じように、「節目の時」を意識して、成長の節を作ってほしいのです。「できたこと」と「できなかったこと」をはっきりさせ、自分の頑張り認めながら、次の節目に向かって進むようにしてください。節目にたどりついては、次の節目を目指す。また、節目にたどりついては次の節目を目指す。そうすることで、皆さんの心も体も頭も、太く、しっかりと成長させていきましょう。



何気なく過ごしている毎日ですが、節目の時には、一人ひとりが、自分の頑なりに目を向け、自分を褒め、次の目標に向かって再スタートする。それを繰り返すことで、竹のように強くしなやかに成長してくれることを願って話しました。

ところが現実には「あゆみ」のAやOの数だけに目を向け、一喜一憂して終わってしまうことが多く、なかなか自分で自分の頑なりに目を向けるのは難しいようです。

だからこそ、保護者の皆様と担任が今回の面談を通して子どもたちの頑なりにについての共通理解を図り、みんなで褒めていくことで、子どもたちが自分のがんばりや成長に気付くことが大切だと考えています。

「節目の時」は気持ちが切り替わるチャンスの時です。しかも、節目はいつでも作れます。誕生日や月初め、何かを達成した時、悔しい思いをした時など、自分で決めた節目の時に、子どもたちが気持ちよく新たな一歩を踏み出せるよう、ご家庭での温かい言葉がけをこれからもよろしく願います。

【留守番電話設定】平日 17時15分から翌朝7時45分までは留守番電話を設定しています。